

大分県姫島村における生活・生業に関わる重要な景観構成要素の特定

準会員○林孝茂*1

正会員

同 姫野由香*2

同 牛苗*3

同 大堂麻里香*4

同 安藤万葉*4

同 西悠太*1

7. 都市計画－6. 景観と都市デザイン

文化的景観 景観構成要素 行動軌跡調査

1 研究の背景と目的

景観は人々の生活や生業の変化に伴って変容している。その中でも、文化的景観は「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」と定義されている。つまり、山や川などの自然と田畑や建造物等の人工的資源の調和により形成されている景観である。文化的景観の保全には、各地域の文化的価値を正しく評価し、守り育てることが重要である。そのためには、地域の景観がいかなる要素によって構成され、顕在化している要素を特定することは重要である。

また、特に離島地域では、海に囲まれた地理的特性により、歴史、文化、伝統、風土などが他の影響を受けにくく、地域特性のある風景が蓄積されている。

本研究の対象地域である姫島村は、昔ながらの漁業集落や旧古庄屋敷、黒曜石が露出する観音崎の断崖など、地域資源を生かした生活、生業や風土により創出された要素が多く存在する。

本研究では、生活・生業において、日常生活の実態を把握するための姫島住民の「行動軌跡」やこれまでの生活や生業の変遷を把握するための姫島村の「古写真」と「産業年表」の3つから、同島の景観を構成している要素（以下景観構成要素とする）を抽出する。さらに抽出した景観構成要素を分類、検討することで、文化的景観形成における重要な景観構成要素を特定することを目的とする。

2 研究の方法

2-1 景観構成要素の特定方法

姫島村の重要な景観構成要素は、行動軌跡、古写真、既往研究²⁾による姫島村の生活と生業を整理した産業年表の分析により、抽出する（図1）。抽出した景観

構成要素は、必需行動、拘束行動、自由行動^{注1)}と関係する「①生活に関係する景観構成要素」、「②生業に関係する景観構成要素」、①、②の両方に当てはまるものを「③生活と生業に関係する景観構成要素」、「④自然物」、重要文化財、史跡、名勝、天然記念物などの「⑤文化財」に分類する。以上のいずれにも該当しないものを「⑥その他の景観構成要素」に分類する。

さらに、「①生活に関係する景観構成要素」のなかで、姫島村の住民に対するヒアリング調査から一般的な利用目的以外^{注3)}で利用されていると判断できる景観構成要素は、重要な景観構成要素とする。以上に該当しないものでも、姫島村の住民に対するヒアリング調査から姫島特有の文化であることがわかり、文献調査によって姫島特有の景観構成要素であることが判断できた景観構成要素も重要な景観構成要素とする。古写真と年表の場合は、既往研究²⁾によって明らかとなった姫島村の第一期原風景形成期^{注4)}（1875年－1936年）の期間又はそれ以前から存在し、変わらずに現存している景観構成要素も重要な景観構成要素とする。

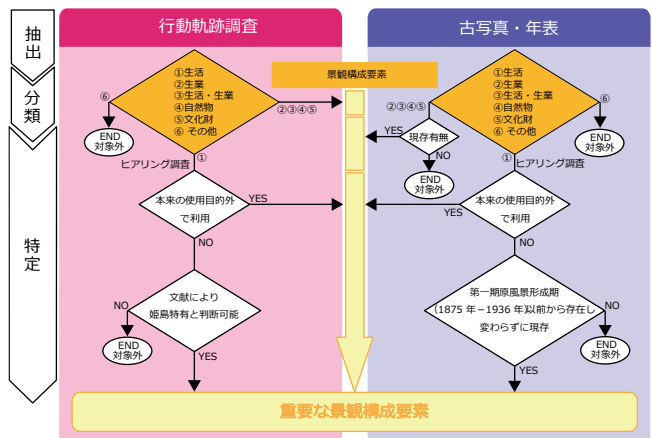


図1 景観構成要素抽出フロー

また、「②生業に関する景観構成要素」、「③生活と生業の両方に関する景観構成要素」、「④自然物」、「⑤文化財」と分類された要素は、行動軌跡調査では、重要な景観構成要素とするが、古写真と年表の場合、現存であれば、重要な景観構成要素とする。

3 行動軌跡調査と行動軌跡図からの抽出方法

3-1 行動軌跡調査からの抽出方法

行動軌跡調査の対象者は、姫島村の原風景を知り、景観の変遷を経験してきたサンプルとして、昭和30～50年（原風景形成期）に生産年齢（15歳以上65歳未満）であった方、または姫島村の主要な産業^{注2)}を職業としている方とした。行動軌跡調査実施日とサンプルと対象者の属性を表1に示す。

行動軌跡調査では、これらの住民に対して1日の生活の流れをヒアリングし、「住民が訪れた場所」、「通行した道」、「印象的な風景」、「日頃訪れる場所」、「姫島村特有の構成要素」を聞き、それぞれの項目から自然物（地形、植生）、人工物（工作地、建造物、道路工作物）を景観構成要素として抽出した。

表1 行動軌跡調査実施日とサンプルと対象者の属性

性別	年齢					居住区						職業						行動軌跡調査実施日	サンプル数(人)				
	男性	女性	50代	60代	70代	80代	90代	1区	2区	3区	4区	5区	6区	無職	主婦	神職	公務員			販売業	農家	漁師	
	12	25	5	11	8	10	3	1	9	5	15	4	3	19	2	1	3	1	3	4	4	2015年12月17日	4
																						2016年1月16日	2
																						2016年1月23日	5
																						2016年1月27日	5
																						2016年1月29日	14
																						2016年3月8日	7
																						合計	37

3-2 行動軌跡図からの抽出方法

各居住区の住民が訪れた場所や通行した場所を把握するために、居住区別に行動軌跡を地図で示した(図2)。1日の生活の流れを姫島住民37人にヒアリングした結果、「住民が訪れた場所」が最も多いのは、姫島健康管理センターである(7人)。1～4区の住民が5、6

区方面に仕事以外の目的で訪れる場所であると地図とヒアリング内容からわかる。次に多いのは、ショッピングセンター花田(5人)、Aコープ姫島(3人)であった。姫島村のスーパーは、この2店だけのため、利用が集中している。2、4区の住民の行動軌跡から、多様な目的地に行く際、「セド」と呼ばれる家と家の間の路地を利用しての傾向があるとわかった。その中でも4区の住民は、行動目的が仕事の際、セドを多く利用していることがわかる。これにより、セドは、漁業などの生業と深く関係があるのではないかと考える。

このように、住民が1日の生活の中で訪れた場所や通った道などを景観構成要素として表2の行動軌跡調査の項目へ抽出した。

4 古写真と年表からの抽出方法

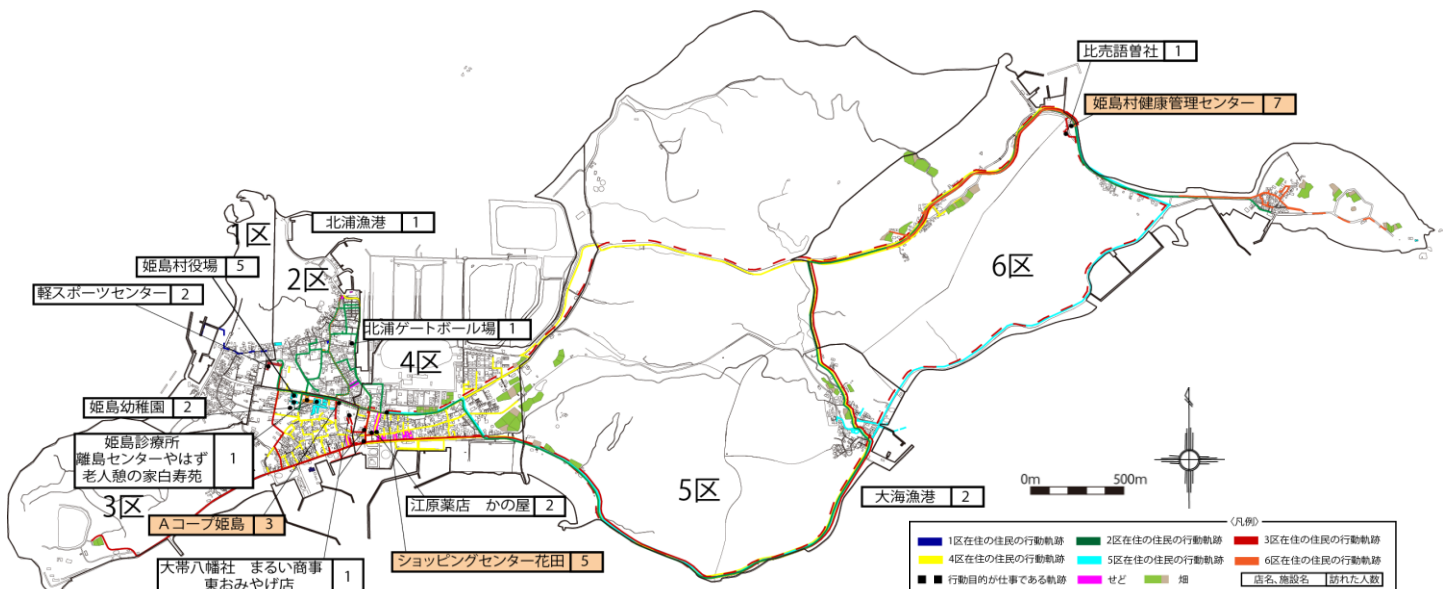
古写真は収集した247枚の内、撮影年が平成である18枚と、周囲の景観が写り込んでいない人物中心の写真23枚を除いた206枚を用いた。古写真から目視で自然物（地形、植生）、人工物（工作地、建造物、道路工作物）と判断できる景観構成要素を抽出する。

写真^{注5)}より抽出される景観構成要素は「矢筈岳」「塩田」「海」「煙突」「製塩工場」「樹木」「住宅」である。この作業を全206枚に適用し、景観構成要素を抽出した。

年表は、既往研究²⁾により表2のように分類し、整理した産業年表から自然物、人工物を景観構成要素として抽出する。

表2 産業年表の分類

全体	歴史						
	生活		生業				
	社会 基盤	施設	農業	漁業	塩田業 えびの養殖業	畜産業	商業 流通



(90回)、船(82回)の景観構成要素は、全体の半数近く写り込んでいるので、姫島村の象徴的な景観を構成する要素として重要であると述べたが、住宅だけ重要な景観構成要素として特定されなかった。このことより、古写真の出現回数が多いからといって必ずしも重要であるとは、限らないことがわかった。

また、行動軌跡、古写真、年表の3つの方法全てから抽出できたのは、観音崎、北浦漁港、姫島港、西浦漁港、姫島村郵便局、姫島村国民診療健康所、庄屋古庄家、姫島中学校、大帯八幡社、比売語曾社、姫島灯台の計11個の景観構成要素であった。これらは、昔から姫島村の住民の生活や生業に影響を与え、現在も姫島村の住民に利用され、認識されていると考えられる。

しかし、姫島村郵便局、姫島村国民診療健康所、姫島中学校の3つは、重要な景観構成要素として特定できなかった。このことから、複数の調査方法から抽出されたからといって必ずしも重要であるとは限らないとわかった。

重要な景観構成要素である姫島村健康管理センター、東おみやげ店、まるい商事、江原薬店、道端は、一般的な利用目的以外^{注3)}でも利用されている。その目的は、全て雑談である。このことから、現在の姫島村の生活において、これら5つの景観構成要素が本来の利用目的に加え、島民のたまり場ともなっており、重要な景観構成要素と考えることができる。

6 総括

本研究では、姫島村の生活や生業に関する景観構成要素を姫島住民の行動軌跡、姫島村古写真、既往研究²⁾によって姫島村の生活と生業を整理した産業年表の分析から景観構成要素を抽出した。

行動軌跡調査から計64個抽出され、その中で人工物は47個と多く、その中でも商店が8個と多かった。商店は、日常生活の中で利用されている要素であることがわかる。古写真から計44個抽出され、その中で最も出現回数が多い景観構成要素は、海(138回)、次いで、樹木(124回)、住宅(90回)、船(82回)であった。これらの景観構成要素は、全体の半数近く写り込んでいるので、姫島村の象徴的な景観を構成する要素とし

て重要であると考えた。年表から計84個抽出され、その中で漁業関連施設が23個(27%)と最も多く抽出された。このことから漁業が生業であることがわかる。

重要な景観構成要素は、75個特定できた。(表3)そのうち、漁港、波止場、クルマエビ養殖場、漁具倉庫、灯台などの漁業に関する景観構成要素の割合は、41%と最も多く特定された。このことから海に囲まれた環境である姫島村において、漁業に関する景観構成要素は、重要であると考えられる。

本来の利用目的以外で利用されている景観構成要素は、東おみやげ店、まるい商事、江原薬店、姫島村健康管理センター、道端の5要素であった。そのすべてが本来の利用目的以外の目的は、雑談であった。このことから、現在の姫島村の生活において、これら5つの景観構成要素が本来の利用目的に加え、島民のたまり場ともなっていることがわかった。

【補注】

- 注1) 必需行動とは(睡眠、食事、身のまわりの用事、療養・静養)、拘束行動とは(仕事関連、学業、家事、通勤、通学、社会参加)、自由行動とは(会話・交際、レジャー活動、マスメディア接触、休息)のこと。
 注2) 研究では姫島村の風土によって開始した生業を塩田業、漁業、農業、畜産業、商業とする。
 注3) 一般的な利用目的以外とは、例えば商店は買い物をするためにある場所のように、その空間が存在する目的以外で利用されていることを指す。
 注4) 参考文献2)により姫島村の景観の変容過程が明らかにされた。第一期原風景形成期は小学校や村道を始めとする『生活』施設や道路の基盤整備がなされた期間。また、漁業季節を定め『生業』を営むためのルールや組織が形成されるなど、姫島村の骨格が築かれた重要な期間であると考え、姫島村の第一期原風景形成期とした。
 注5) 古写真から景観構成要素を抽出した写真



【参考文献】

- 文化財保護法第二条第1項第五号
- 野本昴、姫野由香、牛苗、大堂麻里香、安藤万葉「生活・生業に関連した歴史年表に基づく景観変容期間の抽出—大分県姫島村の重要な文化的景観選定に関する研究—」日本建築学会、九州支部3、計画系、2016年3月
- 2010年国民生活時間調査報告書 NHK放送文化研究所 世論調査部 青柳直希、岡本大「離島地域の空間利用特性と島民の生活行動にみる居住環境満足度の要因」、平成23年度卒業論文
- 福井彩乃「生活・生業の変遷から見る重要な文化的景観構成要素の抽出と管理・運営の方向性—別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要な文化的景観指定に関する研究—」、平成21年度修士論文
- 橋部好明、河村満生、森保洋之、池田亜依、木本涉「祝島集落の練堀修復プロジェクトの軌跡—集落研究から練堀修復、そして修復保全へ—」広島工業大学紀要研究編第42巻(2008) pp.319-324

*1 大分大学工学部福祉環境工学科 学部生
 *2 大分大学工学部福祉環境工学科 助教 博士(工学)
 *3 大分大学大学院工学研究科博士後期課程 大学院生
 *4 大分大学大学院工学研究科博士前期課程 大学院生

Undergraduate Student, Oita Univ.
 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr. Eng
 Doctoral Course, Oita Univ.
 Graduate Student, Oita Univ.